

それでも総理は、よく石油備蓄 何日分とか 来年1月まで在庫がありという声ばかりで、政府は国民への節約要請は否定しています。重要なのは「不足時に何を止めるか」これを決めていないと全体がじわじわ止まるという**最悪パターン**となりかねません。結論から言うと、日本は「量の備蓄」よりも、これからは用途ごとの優先順位設計(エネルギー配分の設計)にシフトせざるを得ない段階に入っています。エネルギー源として節約を要請する前に、優先順位を決めて省エネの要請が必要と思われれます。

原油の使い道を分解すると**燃料(ガソリン・軽油) \* 発電 \* 化学原料(ナフサ等)**となる。生活産業に不可欠な社会インフラ(燃料・発電等)は最優先すべきです。問題はとなるのは化学原料となるナフサで、**プラスチック・医療・繊維等の基盤となるが、「使用優先順位」**を決めることが重要課題となります。人命にかかわる**医療・介護インフラを優先し、プラスチックを利用した過剰包装等を規制する**などが重要となります。本来の優先順位として ①医療(器具・薬品・衛生材料) ②介護(紙おむつ・衛生用品) ③食品保存(最低限の包装) ④インフラ(電気・水道部材) ⑤一般消費財 ⑥使い捨て・過剰包装等が考えられますが、現在「**使い捨て用途に流れすぎている**」と思われれます。**優先順位(一位 医療医薬介護用品・生活衛生日用品等)**を決めなければ**最悪の状況**に陥りかねません。特に**一般消費財・使い捨て過剰包装等は極力使用を抑えるように**しなければいけないのではないかと。

外国に目を向ければ 通勤に公共交通機関利用・乗用車ではなく自転車・徒歩 更に 通勤を止め在宅勤務とする、食料品も加工せず食するものを勧める等の節約 mood。首相が**航空機の利用自粛・公共交通の利用・高速道路の減速・車の乗り合い等々**、節約を呼びかけなければ大変なことになる時期に近づいている。限りある天然資源を無駄に使わない、**特に 命や生活に直結した重要商品の優先順位を間違わずに使用**する。即ち 節約ではなく **エネルギー戦略**です。

食料品は「**地産地消**」を一步進めて、使用される燃料を削減する「**旬産旬消**」を推奨する。燃料問題だけでなく、価格も安定化しやすくなる。**単なる節約ではなく、エネルギーに依存しすぎない生活設計を個人でも意識していくことが大切**であると思われれますが、如何 お考えですか。

元気だと 何食べてると よく聞かれ

健康に 良い食べ物を 食べ過ぎる

見渡せば 100円ショップ プラばかり

令和8年 穀 雨